

実施日：7月3日（1～3校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：ネットに潜む危険（子ども達の携帯電話に潜む危険）～その仕組みを知ることによって防げる心の傷～	
対 象：全生徒	実施場所：第1音楽室（ホール）
ア ねらい スマートフォンの普及で生活が便利になる一方、いじめに荷担する情報発信、情報漏洩や犯罪への誘導などの様々な弊害が生まれていることを知り、ネットの影の部分を考えさせると共に、安全に使う方法を身につけさせ情報モラルを守る生徒を育成する。	
イ 指導内容(指導略案)や取組の概要 【講演内容の概略】 ・ 講師：兵庫県情報セキュリティーサポーター 篠原嘉一さん ・ 無料通話&メールアプリの「LINE」が人気を集めるなど、インターネットの発達とスマートフォンの普及で生活が便利になる一方、情報漏洩、プライバシー侵害、犯罪への誘導など、様々な弊害も生まれてきている。無料アプリの多くが電話帳など個人の情報を吸い上げる仕組みになっていることを説明し、「一度ネットに出て行ったものは消えない。」と強調された。匿名と誤っていても様々な情報が関連づけられて実名や住所が明らかになってしまう場合があることを紹介し、「中学、高校の時の不用意な書き込みが、就職の際に判断にも使われる」と注意を喚起された。さらにGPSを使った位置情報システムは便利である反面、どこでスマートフォンを使っているかが他人にわかったり、気軽に送った写真の位置情報から自宅の場所がわかってしまったりすることを実際に示し、「悪意ある人間は、簡単にあなたたちの居場所を見つけてしまう」と説明された。スマートフォンを振ることで個人情報を交換する仕組みについても、「人前でやると、第三者にも簡単に情報を知られてしまう」と危険性を具体的に説明された。最後に「つぶやくなら、良い話をつぶやいてほしい」と話をしていただいた。 ・ 危険を避ける対策 ▽投稿は消せないということを常に意識する。▽悪い話をつぶやかない。▽ネット上の顔も知らない相手とは深刻な話ほしない。▽必要のないアプリは入れない▽好ましくない画像はネットにアップしない。 ▽電話帳には必要以上のデータは入れない。	
ウ 連携先：保護者、小学校教職員	
エ 連携にむけての取組 ラインの利用者が急増しており家庭との連携が必要である。講演会に保護者の参加を呼びかけたかったがPTAではスクールカウンセラーから「子どもの心のケア」の学習会を実施されていたので、今年度は講演内容を学年通信や学級通信で伝えていった。また、低年齢化している現状から小中連携して新たに教職員対象の学習会を篠原嘉一さんを招いて実施した。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 全職員で意思統一をして取り組み、各学年ごとに講演していただくことで、生徒の素直な反応が出やすい状況を設定した。 ・ 3年の技術の授業において最近のTwitter へのモラル違反の画像投稿などを取り上げ、モラル低下につながる間違った使い方を考えさせ、正しい使用をするための授業を行った。	
カ 評価の方法 生徒の感想文 [別紙①]	
キ 成果 自分の意志ではなく、ラインを通して知らない人とつながっていく広がり方、そして、今の投稿が自分の将来に大きく影響することを知り、講演の一瞬一瞬に驚きや落胆の表情が表れ、自ら相談に来る生徒も出てきた。正しい使い方をしなければと意識を高めた生徒が大半で効果を感じることができた。	
ク 課題 ネットと現実と2つの世界で人とつながるのがあたりまえの世界で生きていく子どもたちに、日々変化する新しい知識に教職員や保護者も追いつかない現状があり、専門機関と連携をすることから、保護者に啓発をし、学校から情報発信をしながら教育していく必要を感じる。	

